

令和 7 年 8 月 1 3 日

百日咳の流行について

1 概要

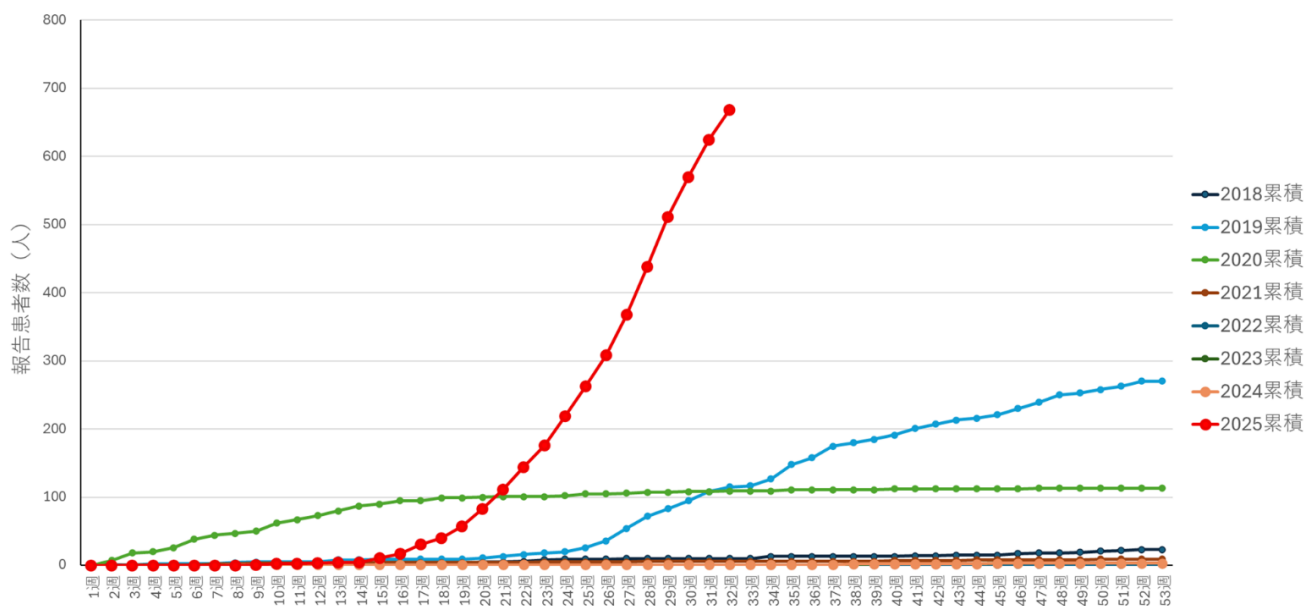
例年に比べて全国的に百日咳患者が多く報告されています。大分県でも、2025 年において第 32 週（8 月 4 日～8 月 10 日）までに 668 人報告（速報値）されており、2018 年からの全数把握疾患としての調査以降、年間累計で最多を更新しています。

百日咳は百日咳菌に感染して発症し、特有のけいれん性の咳発作を特徴とする呼吸器感染症です。主な感染経路は咳やくしゃみなどによる飛沫感染と接触感染であるため、咳が出るときはマスクを着用するなど咳エチケットを徹底することのほか、手指消毒・手洗いの励行などの基本的な感染対策が大切です。

また、予防接種も感染対策として重要であり、生後 2 月以降に計 4 回、定期接種である五種（四種）混合ワクチンの積極的な接種をお願いします。

2 発生状況

大分県内の百日咳報告状況（累計患者数）



3 感染予防策等について

【百日咳とは】

百日咳菌の感染によって、特有のけいれん性の激しい咳発作を特徴とする急性の気道感染症です。百日咳はいずれの年齢でもかかりますが、小児が中心となっています。母親からの免疫が十分でなく、乳児期早期から罹患する可能性があり、乳児（特に新生児や乳児期早期）では重症になり、肺炎、脳症を合併し、まれに死に至ることもあります。

【主な症状】

一般に、経過は3期に分けられ、全経過で約2～3カ月で回復するとされています。

潜伏期間は通常7～10日間程度、風邪症状で始まり咳が激しくなるカタル期、特徴的な咳や呼吸音がみられる瘧咳（けいがい）期を経て回復期に至ります。乳児（特に新生児や乳児早期）では瘧咳期に重症化することがあり、肺炎や脳症などの合併症を併発し、まれに死亡することがあります。また、成人の百日咳では咳が長期にわたって持続しますが、典型的な発作性の咳を示すことは少ないとされています。

【感染経路】

鼻咽頭や気道からの分泌物による飛沫感染や、感染者と接触したりすることによる感染（接触感染）とされています。

【治療】

生後6カ月以上は、抗菌薬による治療が検討されます。また、咳が激しい場合には咳止め等の対症療法が行われることがあります。

【予防について】

主な感染経路は咳やくしゃみなどによる飛沫感染ですが、接触感染にも注意が必要です。咳が出るときはマスクを着用するなど咳エチケットを徹底することのほか、手指消毒・手洗いの励行など基本的な感染対策が大切です。

また、百日咳の予防には、5種混合ワクチン（DPT-IPV-Hib）等の接種が有効です。生後2月以降に計4回、定期接種である5種混合ワクチンの接種を行いましょう。

【問合せ先】

大分県福祉保健部健康政策・感染症対策課
感染症対策班 佐藤、北川
電話：097-506-2776